

リハビリで 1年ぶりに食事が できるよって

東中央病院の嚥下・呼吸リハビリ



ケーキを前に笑顔がこぼれる患者さん(右)と言語聴覚士(左)

クリスマス会の日、生クリームを食べた患者さんを見て拍手が起こりました。

この方は(口から)食べることを希望されていましたが、病状の関係で約1年の間、食べる事ができていませんでした。

飲み込みの機能の改善を目的に、病棟ではどのアイスマッサージを行い、リハビリで発声練習や口の体操などの嚥下訓練や端座位訓練、咳嗽訓練などを行なっていました。

その後、唾液嚥下が可能で、自力で痰が出せるようになり、炎症反応が改善したため、嚥下造影検査(VF)を実施しました。検査の結果、誤嚥はなく、食形態や姿勢などの制限はありませんが、食べることを開始しても良いと判断され、クリスマス会の日に主治医より、食べる許可が下りました。ご本人からは「おいしい」という言葉と満面の笑顔がみられました。

今後は食べながら飲み込みの練習を行い、肺炎に注意しながら好きなものを食べられるようめざしていきます。

認知症状のある患者様は、ときとして「入院して病室にいる」という認識がなく、ベッドから降りようとしたり転んでしまったり、ポータブルトイレに移動しようとして尻もちをついてしまったり

転倒予防

への取り組み

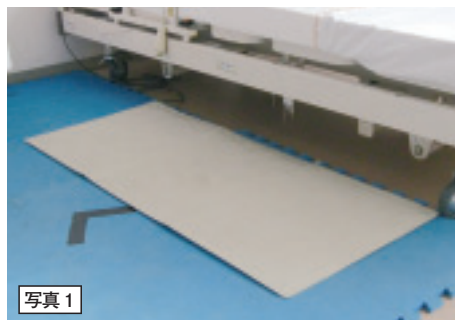
当院には高齢で、認知症状のある患者様が多く入院されています。一般的に、高齢の患者様は加齢に伴う機能低下や、「入院」など、環境の変化により、転倒のリスクが高くなります。

認知症状のある患者様は、ときとして「入院して病室にいる」という認識がなく、ベッドから降りようとしたり転んでしまったり、ポータブルトイレに移動しようとして尻もちをついてしまったり

病棟では、様々な対策をとり、転倒しないですべて入院生活を送っていただけるよう工夫をしています。

▼センサーマット

患者様がベッドから降りたら、チャイムが鳴り職員に知らせる。



▼衝撃緩和マット

患者様がベッドから落ちたとき、衝撃を少なくする。



笑顔がいっぱい クリスマス会

12月12日(月)、各病棟で「クリスマス会」を行いました。平日のためか、ご家族の参加は少なかったのですが、職員の出し物やボランティアさんのケーキで盛り上がりました。多くの患者さんは、クリスマスに馴染みがなかったようですが、サンタクロースを見ると表情が変わっていました。

サンタクロースからのプレゼントに「ありがとう、ありがとう」と感謝される患者さんを見て、サンタクロースの目頭も熱くなっていました。

用いたり、センサーマットと違って、患者様がベッドから降りたら、チャイムが鳴り職員に知らせています。(写真1)

また、ベッドから落ちたとき、衝撃を少なくする、衝撃緩和マットも使用しています。(写真2)

ベッドから車いす、ポータブルトイレへの移動、トイレや浴室への移乗には最大限の注意をしながら患者様に安心して療養していただけるよう、今後も継続的に工夫をしていきます。

(医療安全委員会)

1月 外来診療表

		月	火	水	木	金	土
内科	午前 (9:00~12:00)	大野 重見	重見	大野	重見 眞鍋	大野	7日、21日 大野 14日、28日 重見
	夜間			大野		眞鍋	
整形外科	午後				○ (13:30~15:00)		
皮膚科	午前		10日、24日 野村				